

令和2年度地磁気観測所調査研究成果報告会
(2021年3月3日(水)13:00~17:15 オンライン)

所長挨拶

地磁気観測所長の宮村でございます。

本日の令和2年度地磁気観測所調査研究成果報告会を開催するにあたり、ひと言ご挨拶を申し上げます。

地磁気観測所は、世界各国との国際協力の枠組みの中で、この柿岡の地で100年以上にわたって地磁気の定常観測を行ってきております。地球環境の変動を監視するとともに、観測成果の提供によって、地球磁場に関する様々な学術研究活動に参画するほか、磁気嵐などの地磁気現象が社会活動に与える影響の軽減のための情報発信を行っています。そして、当所自身も、観測業務の改善や地磁気現象の理解を深めるための調査研究に取り組んでおります。

今年度は、年度当初に8つの調査研究課題を設定し、所全体で取り組んでまいりました。それらの課題は、地磁気観測測器の改良や観測作業の改善、観測成果の利活用促進などの地磁気観測業務に直結するテーマや、地球主磁場の解明に係る学術的なテーマのほか、火山活動評価技術の高度化や大気電場と気象シビア現象との関連性など地球電磁気的手法の応用に係るテーマなど、多岐にわたっています。

当所の成果報告会は例年、年度末のこの時期に開催しておりますが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年度はオンライン形式で開催することとなりました。それに合わせて、今回は初めて、気象庁本庁地震火山部や各管区气象台火山センター、気象研究所、気象大学校といった気象庁内各部局に加えて、当所と共同研究を行っている東京大学地震研究所、名古屋大学、国立極地研究所の関係者の皆さんにもご参加頂いております。

本日は、来年度以降の調査研究に繋がるように、皆さんの活発なご議論をお願いして、開会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。